

『孤高の救い主・1』

’21/09/26

聖書箇所: マルコの福音書 14 章 26-42 節 (新約 p.97-)

皆さんは、誰か人を助けに行ったのに、その人に裏切られたとか…、あるいは、誰かに、「乗っていた、はしごを外されてしまった」ような経験をお持ちでしょうか？…実は、イエス様は、私たち人間の“ために”、この地上に降りてきてくださったのに、肝心の私たち人間が、そのイエス様のことを裏切ったり、冷たく見捨ててしまったというような側面があります。

命題: 十字架を目前にして、イエス様はどのように孤独であったでしょう？

今日、私たちが見ていくみことばには、イエス様が十字架にかかられる前夜、あの「最後の晩餐」の後に起こった出来事が記されています。特に、私たちがここ数週で学ぼうとしているみことばには、あのイエス様が経験された“孤独”と言うか…、大勢の者たちがイエス様から離れていってしまったという“現実”を見ていきたいと思えます。

そうすることで、私が願いますのは、このメッセージを聞いてくださった皆さんが、イエス様が、何のために…、また、どういった思いで、あの十字架にかかっていかれたのか？というこの理解を深めていただくことです。…願わくは、皆さんが、ますます、イエス様の経験された孤独をおもんばかってくださって…、今からは、あまりイエス様のことを悲しませることなく…、ますます、神様のみこころに沿って、生きていくことができるようになっていかれることを願います。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばである、マルコ 14:26 以降をお開きくださいますでしょうか？

I・ペテロたちの 過信 ! (26-31 節)

どうぞ、まずは、今回のみことばの内、26-31 節の部分に注目していきましょう…。このみことばは、弟子たち…、特に、そのリーダー格であったシモン・ペテロが自分のことを“過信”していた！というようなことが記されています。今日のみことばの 26-31 節には、このように記されています。

26 そして、賛美の歌を歌ってから、みなでオリーブ山へ出かけて行った。

27 イエスは、弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、つまずきます。『わたしが羊飼いを打つ。すると、羊は散り散りになる』と書いてありますから。

28 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先に、ガリラヤへ行きます。」

29 すると、ペテロがイエスに言った。「たとい全部の者がつまずいても、私はつまずきません。」

30 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたは、きょう、今夜、鶏が二度鳴く前に、わたしを知らないと言います。」

31 ペテロは力を込めて言い張った。「たとい、ごいっしょに死ななければならぬとしても、私は、あなたを知らないなどとは決して申しません。」みなのももそう言った。

●イエス様による 予告 !

ここ 26 節のみことばは、先週学んだ部分から続いています。…先週に学んだばかりなので、皆さんも、よく覚えてくださっていると思えます。…先週学んだ 25 節で、イエス様は、『まことに、あなたがたに告げます。神の国で新しく飲むその日までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。』とおっしゃられました。つまり、一時の別れ“は”あるけれども、今度、再会できる時は皆、神の国に入っている！という意味のことをおっしゃられたのです。だから、彼らは、『賛美の歌を歌ってから…』、つまり、神様をほめたたえてから、オリーブ山へと出かけて行ったのです。

さて、このオリーブ山というのは、今、前の画面にも出ていますが…、エルサレムの直ぐ東にある「山と言うよりも、私に言わせると小高い丘のような感じ」です。このような例えが正しいか間違っているか、よく分かりませんが、奈良公園に行きますと、「若草山」という山と言うか、小高い丘のようなところがありますが…、ちょうど、あんな感じですよ。

さて、そのオリーブ山でのこと…、イエス様はまた、非常に恐ろしい“予告”をされます。…それは、27 節、『あなたがたはみな、つまずきます。『わたしが羊飼いを打つ。すると、羊は散り散りになる』と書いてありますから。』というようなものでした。イエス様がここで言われている、「躓く」という言葉の意味は、「罫を仕掛ける、罪を犯させる…」というものです。…ところで、皆さん、このみことばに“二重カッコ”が使われていることに気づいてくださいますよね？…実は、ここでイエス様がおっしゃられた内容は、旧約聖書にあるゼカリヤ書 13:7 からの引用なのです。そこ、ゼカリヤ書には、こう記されています、『剣よ。目をさましてわたしの牧者を攻め、わたしの仲間の者を攻めよ。——万軍の【主】の御告げ——牧者を打ち殺せ。そうすれば、羊は散って行き、わたしは、この手を子どもたちに向け。』って…。

ここで言われている『わたし』というのは、天におられる父なる神様のことです。その神様が、羊飼いであられるイエス様のことを『打つ…』、つまり、死に追いやられます。すると、羊と称されている弟子たちが散り散りになってしまうという預言です。…実際、このみことば通り、弟子たちの牧会者であられたイエス様が打たれて、その後、弟子たちは皆、散り散りになっていきます…。しかし、イエス様の預言と言うか、予告はそれだけではありません。28 節に、こう続きます、『しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先に、ガリラヤへ行きます。』って…。確かに、このしばらくの後、イエス様は十字架の死からよみがえられて、ガリラヤで弟子たちと再会されます。…イエス様は、何でも、ご存知なのです！…しかし、今日、私たちが注目していきたいことは、そういったところではありません。

●ペテロたちの 反論 !

どうぞ、今日のみことばの 29 節に注目してみてください。そこで、弟子たちの内、リーダー的な存在であったペテロが、こう“反論”します、「いいえ！ イエス様！ 例え、全部の者が躓いたとしても、私だけは、決して踏きません！」って…。こんな風に、ペテロは、イエス様に言い返したのです。

しかし、それに対して、イエス様は、こう返されます。30 節、『まことに、あなたに告げます。あなたは、きょう、今夜、鶏が二度鳴く前に、わたしを知らないと言います。』って…。すると、ペテロは、またも、イエス様に対して、こう反論します。31 節のみことば、「いいえ！ 例え、ご一緒に死ななければならぬとしても、イエス様！ 私は、あなたを知らないなどとは決して言いません！」って…。ここ 31 節の最後には、『みなのももそう言った』とありますので、ペテロだけが、イエス様に反論したわけではありません。当時、11 人居た弟子たちの全員がイエス様に反論したのです。…でも、その結果は、あまりにも有名です…。

明らかに、私たちは、こういったところから、彼ら弟子たちの“過信”というのを見ることが出来ます。…でしよ！…でも、じゃあ、一体どうして、彼ら弟子たちは躓いてしまったのでしょうか？…どうぞ、もう1度、今日のみことばの 29 節に注目してみてください。ここで、ペテロは、『たとい全部の者がつまずいても…』という言葉の口にはしています。つまり、ペテロは、他人と自分を比較しているのです！…恐らく、ペテロは、過去に何度か、ペテロなりの“成功体験”というようなものがあつたのではないのでしょうか？…例えば、弟子たちの中で、自分だけがイエス様から褒められたとか…、他の弟子たちを言い負かしたとか…、そういったような経験です。

そういったような成功体験そのものが悪いこと…、つまり、悪なものではありません。しかし、私たちは、そういったような成功体験から、必要以上に、自分の力や何かに過信してしまうことがあるのではないのでしょうか？…実際、この時のペテロもそうでした。…だから、ペテロは、「たとい全部の者がつまずいても、私

は…、いや、私だけはずみません！」というような…、イエス様の言葉さえも強く否定するようなことを口走ってしまったのではないのでしょうか？

しかし、そういったような過信をしてしまうのは、彼ら弟子たちだけでしょうか？…いいえ！私も…、また、皆さんも…、この時の弟子たちと同様、自分たちの力や何かを過大評価してしまう時があるのです。…そうじゃありません？

どうか、皆さん。…例えば、あの使徒パウロのことなどを思い起こしてみてください。彼ほど、イエス様の教えに忠実で…、かつ、神様に用いられたクリスチャンも、そう多くは居なかったと思いますが、そのパウロは、どんな風な証しをしてくれています？…果たして、彼は、「私は才能に溢れた人間だから…。だから、躓かない！私は、この人やあの人に比べて優れている！だから、私は、決して、躓かないのだ！」といったようなことを教えてくれていたのでしょうか？

⇒いいえ！…例えば、パウロは、当時の者たちが羨むようなものを数多く持っていました。しかし、そんなものをパウロは、キリストのゆえに損と思うようになったと証してくれています。ピリピ 3:5-7、『5 私は八日目の割礼を受け、イスラエル民族に属し、ベニヤミンの分かれの者です。きついのヘブル人で、律法についてはパリサイ人、6 その熱心は教会を迫害したほどで、律法による義についてならば非難されるところのない者です。7 しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。』…。

このように、パウロは、当時の者たちが願っても、なかなか、手にすることが出来なかったような、血統や最高の教育、あるいは、他人からの評価を受けておりました。しかし、そのようなものは、一切、救いに貢献することは無かったです。

それだけではありません！…パウロは、自分が様々な局面で、神様に用いられる秘訣について、こんな風に教えてくれています。ピリピ 4:11-13、『11 乏しいからこう言うではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。12 私は、貧しさの中にある道も知っており、豊かさの中にある道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。13 私は、私を強くくださる方によって、どんなことでもできるのです。』…。

⇒良いですか？皆さん。…あのパウロだって、「自分は、様々な経験によって学ばされていった！」と言うのです。初めから、信仰が強く…、どんなことにも耐えられたわけじゃなかったのです。…でも、じゃあ、私たちは、どんなことを学んで…、どうすれば、霊的に成長させられていくのでしょうか？どうすれば、私たちの神であり、救い主であられるイエス様に似た者へ変えられていくのでしょうか？…そういったことを学んでいくためにも、次のポイントに進んでいきましょう。

II・ゲツセマネでの 顛末 ! (32-42 節)

どうぞ、今度は、今日のみことばの内、32-42 節をご覧ください。そこでは、あのゲツセマネの園で起こった“顛末”について教えられています。「顛末」というのは、「事の最初から最後まで事情」という意味です。あのゲツセマネで、イエス様と弟子たちとの間で、どんなやり取りがあったのでしょうか？

32 ゲツセマネという所に来て、イエスは弟子たちに言われた。「わたしが祈る間、ここにすわっていなさい。」

33 そして、ペテロ、ヤコブ、ヨハネをいっしょに連れて行かれた。イエスは深く恐れもだえ始められた。

34 そして彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、目をさましていなさい。」

35 それから、イエスは少し進んで行って、地面にひれ伏し、もしできることなら、この時が自分から過ぎ去るようにと祈り、

36 またこう言われた。「アバ、父よ。あなたにおできにならないことはありません。どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。」

37 それから、イエスは戻って来て、彼らの眠っているのを見つけ、ペテロに言われた。「シモン。眠っているのか。一時間でも目をさましていられなかつたのか。」

38 誘惑に陥らないように、目をさまして、祈り続けなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」

39 イエスは再び離れて行き、前と同じことばで祈られた。

40 そして、また戻って来て、ご覧になると、彼らは眠っていた。ひどく眠けがさしていたのである。彼らは、イエスにどう言ってもよいか、わからなかつた。

41 イエスは三度目に来て、彼らに言われた。「まだ眠って休んでいるのですか。もう十分です。時が来ました。見なさい。人の子は罪人たちの手に渡されます。」

42 立ちなさい。さあ、行くのです。見なさい。わたしを裏切る者が近づきました。」

●イエス様の 祈り !

さて、このみことばは、あのイエス様が主導されて、皆が、オリブ山からゲツセマネという所へ移動されたということを教えてくれています。この写真は、多分、エルサレムの神殿側から東方面を向いて撮ったものだと思います。この写真の中央に位置する、背の高い木が何本も生えているエリアが「ゲツセマネ」です。今、そのエリアは、かなり狭くなっているのですが、2000年前の当時は、もっと広がったそうです。…それと、写真の奥と言うか、上の辺りが、先程とは別の角度から撮ったオリブ山です。つまり、ゲツセマネの園とは、オリブ山からエルサレム方面に下っていった場合の…、その途中にあるわけなのです。

さて…、ここで私たちが注目していきたいことは、あのイエス様でさえ、祈りというものを必要とされ…、その祈りを優先された！ということです。…この時だけではありません。例えば、イエス様は、宣教を開始された直後、あるいは、12 人の弟子たちを選ばれる前…、そして、この十字架を目前に控えられた時など…、要所要所で、特別な祈りを捧げておられることを、聖書のみことばは教えてくれています。もちろん、それ以外でも、イエス様が日常的に祈りを捧げておられたことを、聖書は教えてくれています。

そのように、あのイエス様でさえ、祈りを重んじられて、天の父なる神様との交わりを大切にされたのなら…、私たち人間には、もっと、祈りを通して、この神様と交わって…、ますます、この神様によって強められることが必要なのではないでしょうか？

実は、多くの人たちは、ある勘違いをしています。…それは、「私は、真唯一の神様を信じて救われたのだから、もう大丈夫だ！」というような…、間違った自信です。もしも、信仰だけで、救われた後の、様々な誘惑や試練に勝利できていくのなら、誰でも皆、勝利できます。そうでしょ！

しかし、現実には、そうではありません…。毎度毎度言いますように、信仰を持った時がスタートであり…、それ以降がむしろ大事なのです！…と言いますのも、どうか、聖書のみことばを、よく調べてみてください！…確かに、私たち人間が救われる道は、イエス様を信じる信仰だけです。しかし、イエス様は、ヨハネ 8 章で、その…、信じた者たちにおっしゃいました、「もし、あなたがたが、みことばに留まるのなら、あなた方は、本当にわたしの弟子です！そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」…と…、…と言うことは、もしも、「イエス様を信じます！」という告白をした者であったとしても、聖書のみことばに留まらないのなら、その者は、本当はイエス様の弟子ではない！…つまり、救われては“いない”！ということ、イエス様は…、また、この聖書のみことばは教えてくれているのではないのでしょうか！

だから、イエス様も、あの山上の説教の最後で教えてくれたでしょ！…「わたしに向かって、主よ！主よ！と言う者が皆、天の御国に入るのではない！…天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです！」って…。だから、主の兄弟ヤコブも教えてくれているのです！「信仰と言っても、その中には、その人を救う信仰と救わない信仰とがある！もしも、その人に行ないが無いのなら、果たして、そのような信仰が人を救うでしょうか？そのような…、行ないの無い信仰は死んだ信仰であって、そのような信仰は、何の役にも立たない！」って…。そうでしょ！

さて…、どうぞ、今日のみことばに戻っていきましょう。…ここで、イエス様は、弟子たちに対して、**32 節、『わたしが祈る間、ここにすわっていないさい！』**ということだけをおっしゃられたわけではありません。…と言いますのは、ここ **38 節**で、イエス様が弟子たちに対して、**『誘惑に陥らないように、目をさまして、祈り続けなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。』**とおっしゃっておられるように、イエス様は、弟子たちにも祈っていないさい！ということをお命じられたのです。しかし、弟子たちは、しばらくの間も、起きて、祈り続けることができなかったようです。

どうぞ、今度は **33 節**をご覧ください。…そこで、イエス様は、このゲツセマネでも、**11 人の弟子たち全員を…、皆を“均等に扱われたのではなく”、その内、3人(ペテロとヤコブ、ヨハネ)だけを近くに呼び寄せられたことがわかります。**

そこでの、イエス様の様子は、これまで…、聖書のどこにも描かれていなかったような…、特別なものがあります。まず、**33 節の後半、『…イエスは“深く恐れ”もだえ始められた。』**…そうして、**34 節、『わたしは悲しみのあまり死ぬほどもです。…』**という、お言葉。…皆さんは、悲しみのあまり死ぬほどの状態になってこつてあります？…とにかく、イエス様が過去、このような表現をされるようなほどの苦しみを味わわれたことは、かつて無かつたはずであります。

一体何をイエス様は苦しんでおられたのでしょうか？…そのことについては、36 節に記されています。『アバ、父よ。あなたにおできにならないことはありません。どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。』って…。

⇒ここで、イエス様が使われた**『アバ』**という言葉は、父親を指す言葉ですが、普通の言葉よりも、もっと親しみを込めた呼び方が使われています。つまり、ここでは、2種類のお父さんを指す言葉が使われてあるわけです。「お父さん！父よ！」という感じですが。…このみことばが教えてくれているように、天の父なる神様とイエス様とは、非常に親しい…、何者にも邪魔されないような関係でありました。

ここ **36 節**で、イエス様が祈っておられるように、天の父なる神様には何一つ御出来にならないことはありません。しかし…、そんな全能なる神様が…、そして、誰よりも親しい関係にあった父なる神様がイエス様におっしゃるのです、「どうか、大勢の者たちの救いのため、彼らの罪をその身に背負って、あの十字架上で裁かれてはくれないか？」って…。

ここ **36 節**で言われている**『杯』**とは、イエス様が受けなければならない、「あの十字架上的の痛み」を指しているのは間違いありません。もちろん、そのような…、父なる神様からの御言葉は聖書のどこにも記されてありません。…あくまでも、これは私の脚色です。…でも、そういうことでしょ？…でも、そういうことを言われたイエス様の胸中…、心の中は、どういった思いだったでしょう？…残念ながら、そういうことは、当事者であるイエス様にしか分かり得ません。

でも、それに対するイエス様の結論は、こうだったものでした…。**36 節の後半、『…しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。』**って…。こういった表現が正しいかどうか分かりませんが、この時のイエス様には、ある種の選択肢があったような感じがします。…と言うのは、①自分の願

いだけを優先して、十字架にかからない道を選択することか…。あるいは、②父なる神様のみこころに従って、私や皆さんの救いの道を備えるために、あの十字架に向かっていくことです。

皆さん、覚えてくださっています？…先週、私たちは、ヨハネ伝 10 章のみことばから、イエス様が、自ら進んで、あの十字架へかかって、そのいのちを捨ててくださった！ということを学びました。…しかし、そういった教えと、今日、このみことばが教えてくれているような…、イエス様が、本当は、あの十字架にかかりたくはなかった、ということは矛盾しないでしょうか？…いかがでしょう？

結論を言いますと、もちろん、それらは全く矛盾しません！…先週に学んだように、ヨハネ伝 10 章で、イエス様は、こう教えてくださっています。ヨハネ 10:14-18、『14 わたしは良い牧者です。わたしはわたしのもを知っています。また、わたしのもは、わたしを知っています。 15 それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同様です。また、わたしは羊のためにわたしのいのちを捨てます。 16 わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊があります。わたしはそれをも導かなければなりません。彼らはわたしの声に聞き従い、一つの群れ、ひとりの牧者となるのです。 17 わたしが自分のいのちを再び得るために自分のいのちを捨てるからこそ、父はわたしを愛してくださいます。 18 だれも、わたしからのちを取った者はいません。わたしが自分からのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。』

⇒ここで、イエス様ははっきりと教えてくださっています、「わたしは、自分の意志で…、自分自身の選択で、わたしのいのちを捨てるのです！」って…。でも、そのことは、逆に言い換えますと、イエス様には、選択肢があったということじゃありません？…もしも、イエス様に、選択の自由が無かつたのなら、それは、イエス様の意志とは言えません。…でも、イエス様は、数ある選択の中、自らの意志で…、私やあなたのために、あの十字架に向かって…、そのいのちを犠牲にしてくださいましたのです！

でも、そのイエス様が、あの十字架にかかれるということは、決して、簡単なことではなく…、大変なことでありました。…そういったことを、私たちは、この後、マルコ伝の学びを進めながら学んでいきます。…しかし、イエス様は、そういったことをすべてご存知の上で、自ら進んで、あの十字架へ向かっていってくださったのです。

●弟子たちの問題と弱さ！

さて、最後に、私たちが学んでいきたいのは、そういったイエス様の姿勢と対比されてある、弟子たちの“問題”と言うか、彼らの“弱さ”であります。…まず、イエス様の場合、この時のイエス様には、私たち人間には理解できないような…、大変な苦しみイエス様のことを襲っておりました。…でも、だからこそ！イエス様は、その神様との交わりを取るため…、ゲツセマネの園へ行って祈られたのです。

しかし…、それに対して、弟子たちの方はどうだったでしょう？…無論、この後、イエス様ほどではないにしろ、弟子たちの上にも、過去、経験したことがないような…、大変な試練が 11 人の弟子たちのことを襲います。…だから、イエス様は、弟子たちのことを伴って、弟子たちに祈るよう教えられたのです。

しかし、この時の弟子たちはどうでした？イエス様のように、祈りを必要とし…、神様からの助けを必要としておりました？⇒いいえ！…どうか、先程見たポイントを思い出してください！…この時の弟子たちは皆、自分たちの力や信仰に“過信”していたのです！「他の者たちがどうなっても、私だけは大丈夫だ！」って…。そうでしょ！

明らかに、この時の弟子たちは過信しておりました。でも、それこそが、実は問題だったのです！…彼らの緊張感の無さが、この時の弟子たちの様子に分かりやすく出てきています。…どうぞ、今日のみことばの 37 節以降に注目してみてください。…十字架を目前に控えたイエス様が、それこそ必死になって祈

っておられる…。その傍らで、弟子たちは何と居眠りをしていたのです。…しかも、イエス様が3度にも渡って、弟子たちのことを起こしに来られたのに、彼らは、その3回とも起きていることができなかったのです…。

どうぞ、この38節に注目してみてください。そこで、イエス様は、『誘惑に陥らないように、目をさまして、祈り続けなさい。心は燃えていても、“肉体は弱い”のです。』ということを教えてください。…確かに、この時の弟子たちの心は…。その信仰は、内に燃えていたかも知れません。しかし、まず、弟子たちは、自分たちの肉体の弱さを覚えるべきでした…。だって、彼らは、たったの1時間さえ起きていることができなかったのですから…。そうじゃありません？

それと、イエス様が、ここで弟子たちに言われた、「目をさまして、祈り続けなさい！」ということには、2重の意味があると私は思っています。…1つは、実際に、寝ることなく、せめて、1時間2時間くらいは、イエス様と一緒に祈り続けなさい！ということです。…そうして、もう1つの意味は、常に、自分の弱さや罪の恐ろしさを覚えて、警戒しておきなさい！という意味です。…だから、イエス様は、ここ38節で、『誘惑に陥らないように…祈り続けなさい！』という風に教えてくださいました。…と言いますのは、祈りこそが…、神様の助けだけが、私たちを様々な誘惑から守ってくれるからです。…そうでしょ！皆さん！

そうして、この後、イエス様のところへ、あの裏切り者であるイスカリオテたちがやって来ます。でも、そういったことについては、また、来週、皆さんと一緒に学んでいきたいと思います。

でも、今日のメッセージを終える前に、皆さんと一緒に分かち合いたいことは、イエス様と弟子たちとの違いです。もちろん、神であられる救い主イエス様と一介の人間にしか過ぎない弟子たちとは、何もかもが違い過ぎます。…しかし、一方のイエス様は、天の父なる神様のみこころを求めて、死ぬような思いをして、神様に祈りつつ…。必死になって、そのみこころに従おうとされました。

そのようなイエス様に対して、私たちは、どのような思いで、神様のみこころを求め…。どのような真剣さで、神様に祈り…。そのみこころに従おうとしているのでしょうか？…先週のみことばから、私たちは、あのイエス様の十字架での犠牲を忘れることなく、日々、神様の前に、自分自身を吟味して歩いていくべきことを教えられました。…果たして、私は…。また、あなたは、日々、イエス様の十字架での犠牲を覚えて、その模範に倣って、歩もうとしているのでしょうか？…いかがでしょうか？

<励ましの言葉>

実は、今日の平行記事であるルカ伝 22 章には、このようなことが記されています。ルカ 22:31-32、
『31 シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。32 しかし、わたしは、あなたの信仰がなくなるように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちをカづけてやりなさい。』

⇒皆さん、聞いてくださいましたか？…このみことばが教えてくれているように、弟子たちが、この後、様々な苦しみや試練を経験することは、神様のみこころと言うか、神様のお許しの範囲内で起こったことであることが分かります。しかし、イエス様は、そんな弟子たちのためにも祈ってくださっていたのです。

もちろん、イエス様は、この時、弟子たちが1時間も祈り続けることができなくて、眠りこけてしまうことや、この後、イエス様のことを見捨てて逃げ出してしまうことも、また、ペテロがイエス様の予告通り、3度も、イエス様のことを否んでしまうことも、すべてご存知であられました。

しかし、イエス様は、そういったことをすべてご存知の上で、ペテロに、『…立ち直ったら、兄弟たちをカづけてやりなさい！』ということをやめ教えられたのです。…罪を犯してしまうことは、私たち人間は決して、

避けられません。もちろん、1度でも、罪を犯さない方が良いですが、でも、完全に罪を犯さないようには、この罪のからだを持っている間は、なれません。

でも、罪を悔い改めることは可能であり…。それこそが私たちに必要なのです！…そうして、罪や罪の誘惑に対して勝利していくことは、私たちに与えられた責任です。また、罪を犯した者を赦すことも…。また、一緒に、私たちが励まし合って成長していくことも、これまた、神が私たちに与えられた責任であり、務めなのです！

どうか、クリスチャンの皆さん。…この時、イエス様が弟子たちに見せてくださった模範に倣って、イエス様に従う者となっていってください！…でないと、私たちは確実に罪の誘惑に負けていってしまいます…。罪の力や誘惑は強大です。…決して、私や皆さんが、神様の助け無しに、自分たちの力や努力で勝てるような相手ではありません。…だから、どうぞ、日々、神様に祈ることや、聖書のみことばを学ぶことを決して怠らないでください。…そうする時に、初めて、私たちは罪や様々な誘惑に対して、勝利することができます。…初めて、本当の価値ある人生を歩んでいくことができるのです。

そうして、まだ、イエス様のことを信じておられない皆さん。…皆さんも、日々、自分の弱さや罪の誘惑に対する無力さを経験しておられません？…もしも、そうなら、それは感謝なことですよ！…と言いますのは、生まれながらの人間は皆、高慢で…。なかなか、自分の弱さを認めようとはせず、神様を必要としないからです！

でも、私たちが様々な弱さや愚かさを認めるからこそ、私たち人間は、初めて、真の神様にすがろうとするのです。イエス様が教えてくださいましたように、『医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。』(マルコ 2:17)というお言葉通り、このイエス様だけが、あなたを罪から救い…。様々な罪とその誘惑から勝利をさせてくださって、本当の価値ある人生を歩ませてくださいます。…どうか、1日も早く、この救い主であられるイエス様のことを信じて、神様があなたのために用意してくださった救いを、ご自分のものとしていただきたいと思ひます。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。